

佐藤綾野・中田勇人 共著

## 『国際金融論15講』 正誤表

2023年10月 新世社

### 第2講

p. 28 下から6行目

修正前：約 336 兆円であり、…

修正後：約 **328 兆円** であり、…

p. 28 下から3行目

修正前：プラスになっていますがわかります。

修正後：プラスに**なっていることが**わかります。

p. 32 Active Learning

《理解度チェック》

修正前：□2 日本企業がニューヨークのビルを購入した場合、…

修正後：□2 日本企業がニューヨークのビルを **1億円** で購入した場合、…

修正前：□3 中国の子会社から日本の本社へ利益の送金があった場合、…

修正後：□3 中国の子会社から日本の本社へ利益の送金 **3000万円** があった場合、…

### 第3講

p. 39 下から6行目

修正前：開放経済下の一国の総供給は、国内で生産された GDP とともに…

修正後：開放経済下の一国の総供給は、国内で生産され**分配される** GDP (**つまり国民所得 Y**) とともに…

p. 46 上から 4 行目

$$\text{修正前： } Y = \frac{1}{1-c_1+m_1} (c_0 - m_0 + \bar{I} + \bar{G} + \overline{EX})$$

$$\text{修正後： } Y = \frac{1}{1-c_1+m} (c_0 + \bar{I} + \bar{G} + \overline{EX})$$

p. 46 上から 6 行目

$$\text{修正前： } \Delta Y = \frac{1}{1-c_1+m_1} (\Delta \bar{I} + \Delta \bar{G} + \Delta \overline{EX})$$

$$\text{修正後： } \Delta Y = \frac{1}{1-c_1+m} (\Delta \bar{I} + \Delta \bar{G} + \Delta \overline{EX})$$

p. 46 Active Learning

《理解度チェック》

修正前：□2 …のときの均衡国民所得はいくらでしょうか。

修正後：□2 …のときの総需要（および均衡国民所得）はいくらでしょうか。

修正前：□3 …のときの均衡国民所得はいくらでしょうか。

修正後：□3 …のときの総需要（および均衡国民所得）はいくらでしょうか。

## 第 4 講

p. 52 上から 3 行目

修正前：投資家は債券を買うよりも銀行に預金をした方が多くの利益が得られます。

修正後：投資家は債券を買うよりも現金で保有した（あるいは銀行に預金をした）方が流動性を含め大きなメリットが得られます。

p. 52 上から 4 行目

修正前：このような場合、債券需要が減少するので債券価格は下がり、同時に…

修正後：このような場合、債券需要が減少すると同時に…

p. 52 上から 6 行目

修正前：債券の金利*i*が上昇すると、債券需要が上がり債券価格は上昇し、貨幣需要は…

修正後：債券の金利*i*が上昇すると、債券需要が上がると同時に、貨幣需要は…

p. 62 Active Learning

《調べてみよう》

修正前：[1] …と日本の貨幣量（M3）の推移を…

修正後：[1] …と日本の貨幣量の推移を…

## 第5講

p. 75 5.4節の上から11行目

修正前：…が生産者通貨建て（PCP）で価格を設定した場合、

修正後：…が生産者国通貨建て（PCP）で価格を設定した場合、

## 第7講

p. 100 下から6行目

修正前：…ということ意味します。

修正後：…ということを意味します。

p. 104 図表 7-4

2行目の「単価」を「単位」に修正（左右とも）。

p. 116 一番下の式

$$\text{修正前：} 1 + \frac{\Delta S}{S} = \frac{1 + \frac{\Delta P}{P}}{1 + \frac{\Delta P^*}{P^*} \left(1 + \frac{\Delta \theta}{\theta}\right)}$$

$$\text{修正後：} 1 + \frac{\Delta S}{S} = \frac{1 + \frac{\Delta P}{P}}{\left(1 + \frac{\Delta P^*}{P^*}\right) \left(1 + \frac{\Delta \theta}{\theta}\right)}$$

## 第9講

p. 151 下から9行目

修正前：…為替レートが減価（増加）すると

修正後：…為替レートが減価（増価）すると

## 第 10 講

p. 163 図表 10-1

第 1 列で「固定」に分類されているのは「①独自の法定通貨が放棄された為替相場制」のみだが、正しくは「①独自の法定通貨が放棄された為替相場制」および「②カレンシー・ボード制」の 2 種類。

p. 163 図表 10-1

第 4 列の「主な採用国」で、「②カレンシー・ボード制」と「⑥クローリング型制度」の両方にドミニカが掲載されているが、正しいのは「②カレンシー・ボード制」である。

p. 176 脚注 16 の 2 行目

修正前：…自国通貨安を目指しているはずなので

修正後：…自国通貨安を目指しているはずなので

## 第 11 講

p. 195 上から 2 行目の数式の下に次の式を追加

追加：あるいは、 $i = \frac{c_0 + G}{a} + \frac{c_1 - 1}{a} Y$ ,  $c_0 > 0$ ,  $a > 0$ ,  $0 < c_1 < 1$

p. 195 上から 3 行目

修正前：…とき、上の傾き  $\frac{-a}{1 - c_1}$  が負であることがわかり、…

修正後：…とき、上の傾き  $\frac{c_1 - 1}{a}$  が負であるので、…

p. 195 上から 10 行目

修正前： $\frac{\Delta Y}{\Delta i} = \frac{\frac{\partial I}{\partial i}}{1 - \frac{\partial C}{\partial Y}}$

修正後：  $\frac{\Delta i}{\Delta Y} = \frac{1 - \frac{\partial C}{\partial Y}}{\frac{\partial I}{\partial i}}$

p. 195 上から 13 行目

修正前：  $\frac{\Delta Y}{\Delta i} < 0$

修正後：  $\frac{\Delta i}{\Delta Y} < 0$

p. 196 Active Learning

《Discussion》

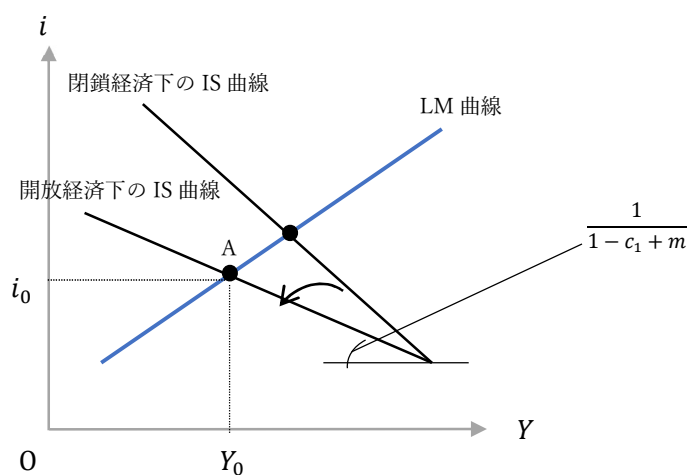
修正前：…単独で発動する場合と比較して，国民所得や金利は…

修正前：…単独で発動する場合と比較して，均衡国民所得や均衡金利は…

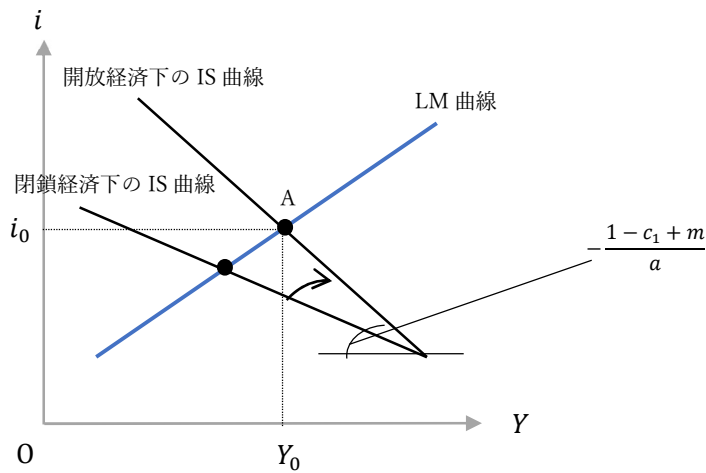
## 第 12 講

p. 200 図表 12-1

修正前：



修正後：



p. 200 上から 3 行目

修正前：輸入性向分だけ小さくなるのが特徴です（本講末の補論参照）。

修正後：輸入性向分だけ （絶対値で）大きくなるのが特徴です（本講末の補論参照）。

p. 208 下から 10 行目

「とします。また経常収支関数は、以下のように特定します。」を削除。

p. 208 下から 5 行目

修正前：  $Y = -\frac{a}{1-c_1+m}i + \frac{1}{1-c_1+m}(x_f Y^f + x_s S)$

修正後：  $i = -\frac{1-c_1+m}{a}Y + \frac{1}{a}(c_0 + x_f Y^f + x_s S)$

p. 208 下から 4 行目から 2 行目

修正前：となり、(12.A) 式は、縦軸  $i$ 、横軸  $Y$  とする平面では、傾き  $-\frac{a}{1-c_1+m} < 0$  の直線となることがわかります。つまり開放経済下の IS 曲線は右下がりになります。また (12.A) 式から、為替レート  $S$  が減価（上昇）したとき、国民所得が増加することもわかります。

修正後：となり、(12.B) 式は、縦軸  $i$ 、横軸  $Y$  とする平面では、傾き  $-\frac{1-c_1+m}{a} < 0$  の直線となることがわかります。つまり開放経済下の IS 曲線は右下がりになります。また (12.B) 式から、為替レート  $S$  が減価（上昇）したとき、国民所得が増加することもわかります。

p. 209 上から 6 行目

$$\text{修正前: } \frac{\Delta Y}{\Delta i} = \frac{\frac{\partial I}{\partial i}}{\left(1 - \frac{\partial C}{\partial Y} - \frac{\partial CA}{\partial Y}\right)}$$

$$\text{修正後: } \frac{\Delta i}{\Delta Y} = \frac{\left(1 - \frac{\partial C}{\partial Y} - \frac{\partial CA}{\partial Y}\right)}{\frac{\partial I}{\partial i}}$$

p. 209 上から 8 行目

$$\text{修正前: } \frac{\Delta Y}{\Delta i} < 0$$

$$\text{修正後: } \frac{\Delta i}{\Delta Y} < 0$$

p. 209 上から 9 行目

修正前: となります。またの傾きになります。

修正後: となり、この傾きは負になります。

p. 209 上から 12 行目

$$\text{修正前: } \frac{\Delta Y}{\Delta S} = \frac{\left(1 - \frac{\partial C}{\partial Y} - \frac{\partial CA}{\partial Y}\right)}{\frac{\partial CA}{\partial S}}$$

$$\text{修正後: } \frac{\Delta Y}{\Delta S} = \frac{\frac{\partial CA}{\partial S}}{\left(1 - \frac{\partial C}{\partial Y} - \frac{\partial CA}{\partial Y}\right)}$$

## 第 13 講

p. 213 下から 7 行目

修正前: …右 (あるいは上方) シフトさせます。

修正後: …右 (あるいは上方) にシフトします。

## 第 15 講

p. 243 上から 10 行目

修正前：米ドル

修正後：USドル

p. 244 上から 5 行目

修正前：米ドル

修正後：USドル

p. 244 上から 5 行目

修正前：米ドル

修正後：USドル

p. 244 上から 11 行目

修正前：米ドル

修正後：USドル

p. 249 上から 14 行目

修正前：…これらの諸要因は最適通貨（OCA）基準とも呼ばれ、

修正後：…これらの諸要因は最適通貨圏（OCA）基準とも呼ばれ、

p. 255 脚注 13 の上から 1 行目，2 行目

修正前：米ドル

修正後：USドル

p. 256 上から 17 行目

修正前：…スケジュールを提案されました。

修正前：…スケジュールが提案されました。

p. 259 上から 3 行目

修正前：米ドル

修正後：USドル